



All-Earth

機能的な住まいには欠かせない
電力から生まれる電磁場の影響を
最小限に抑えるための技術を採用した
未来型住宅の総称です。

● ALL EARTH PARTNER

株式会社レジナ

〒272-0021 千葉県市川市八幡3-8-19
TEL : 047-325-7739 FAX : 047-324-1500

■オールアース®について

<http://www.all-earth.jp>

※オールアース®は株式会社レジナの登録商標です。 ※無断複写・複製・転載・翻訳を禁ず。



All-Earth

オールアース®
**Ecological
Lifestyle
For You**

限りなく自然に近い環境を創造します

オールアース®とは 「大地の上に暮らすこと」

のんびり、ゆったりした時間を芝生の上で寝転がって空を見ると、心地いいですね。

大地と一体になれると、身体とところが元気になる。

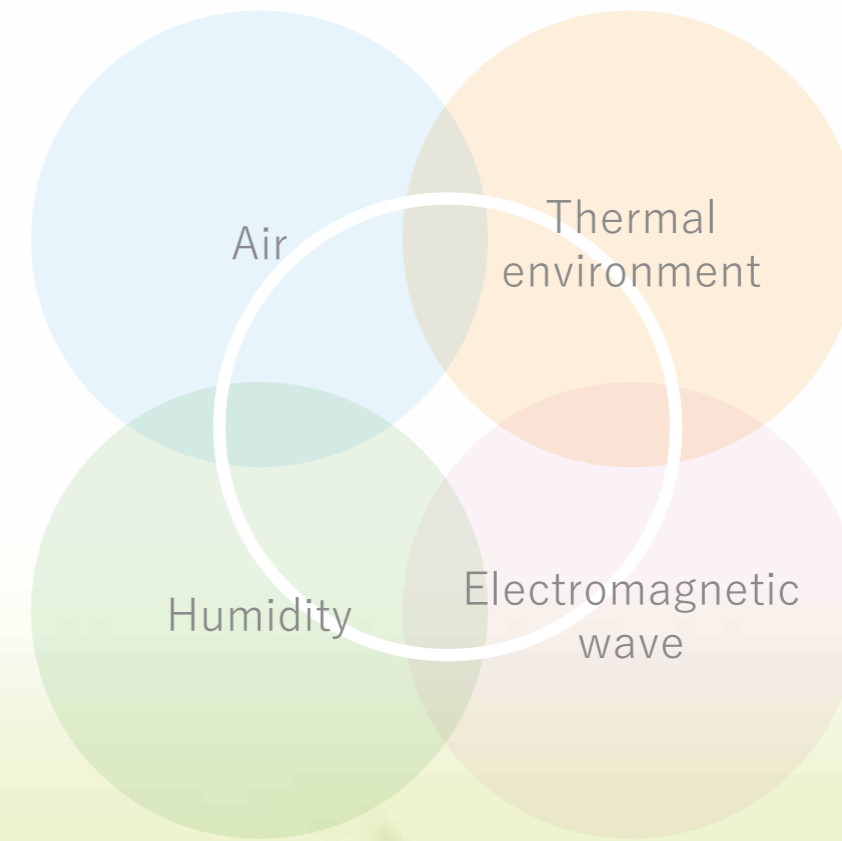
そんな住まいがあればいいなと考えていました。

ふと気づくと、毎日パソコンを使っていて、たくさんの照明に囲まれて快適な住まいのために採用された家電製品が目白押しの我が家。

そこから、たくさんの電磁波が床や壁を伝って、私たちの身体へと届いていることをご存知ですか？

私たちの住まいを大地のように心地よい空間にできるシンプルライフ始めませんか？

これがオールアース®の技術です。



身体に集まる電磁波とは？

パソコンやテレビの画面にホコリが付着しているのをご覧になったことがあると思います。また、毎日掃除をしても、フローリングの上やコンセント周りには、気づけばホコリがついています。

このホコリの正体は「浮遊塵埃」という空气中を浮遊しているホコリで、電気を帯びたところに集まってきます。

実はパソコンの画面と同じことが、身体の表面で起きていることをご存知でしょうか？パソコンに触れていると、私たちの手から身体、頭部までがパソコンと同じ電位になり、パソコン画面と同様に、身体の表面にもホコリが集まります。

ホコリが集まる場所には、電気を使えば必ず起きる電磁波の電場というものが存在しています。

電場は、皮膚表面に誘導電流を起こして、身体全体に伝播していく特性があります。つまり、パソコンなどに触れている間、身体は常に電場に覆われている状況です。

人体は生体電位といわれる微弱な電気信号で動いています。その身体の10万倍の電圧から生じる電場に覆われる状況は、自然界では起こりえない、人間が作り出した環境によるもので、つまりは身体にとってとても不自然で想定外の状況なのです。

デスクトップパソコンの電源コードには、アース端子が付いています。これはアースで電気を逃がすことで、浮遊塵埃の付着を防ぎ、パソコンの誤作動や故障、そして火災を防ぐことを目的としています。

このアースで電気を逃がすことが、電磁波の電場をも逃がし、人体への負荷をも軽減することになるのです。

アースなし



187V/m

アースあり



5V/m

※電場の数値はパソコンメーカーや仕様及び室内の温度や湿度によって異なります。

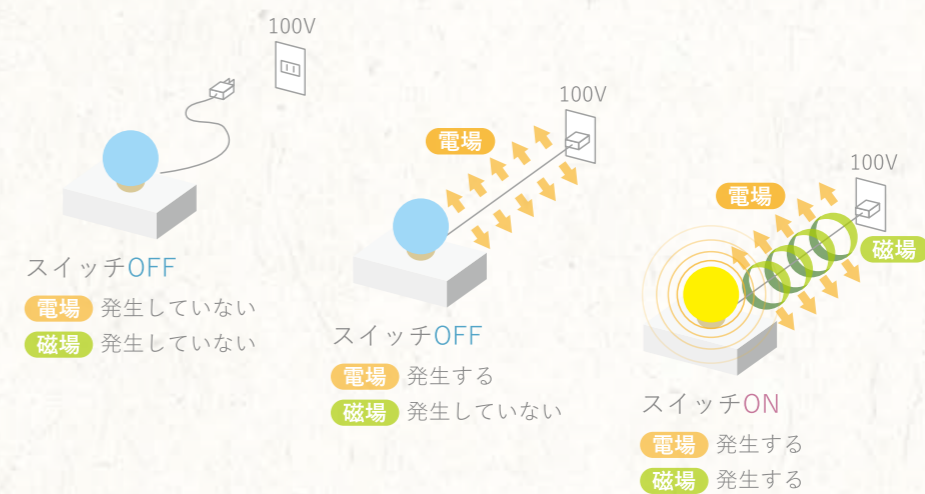
そもそもどこから発生しているの？

皆さんが使っている電気は、発電所から送電線を経由して電柱に送られてきます。住まいの一番最初の入口は引き込み点という場所で、ここから洗面所などにある分電盤までの配線にとっても大きな電流が流れています。

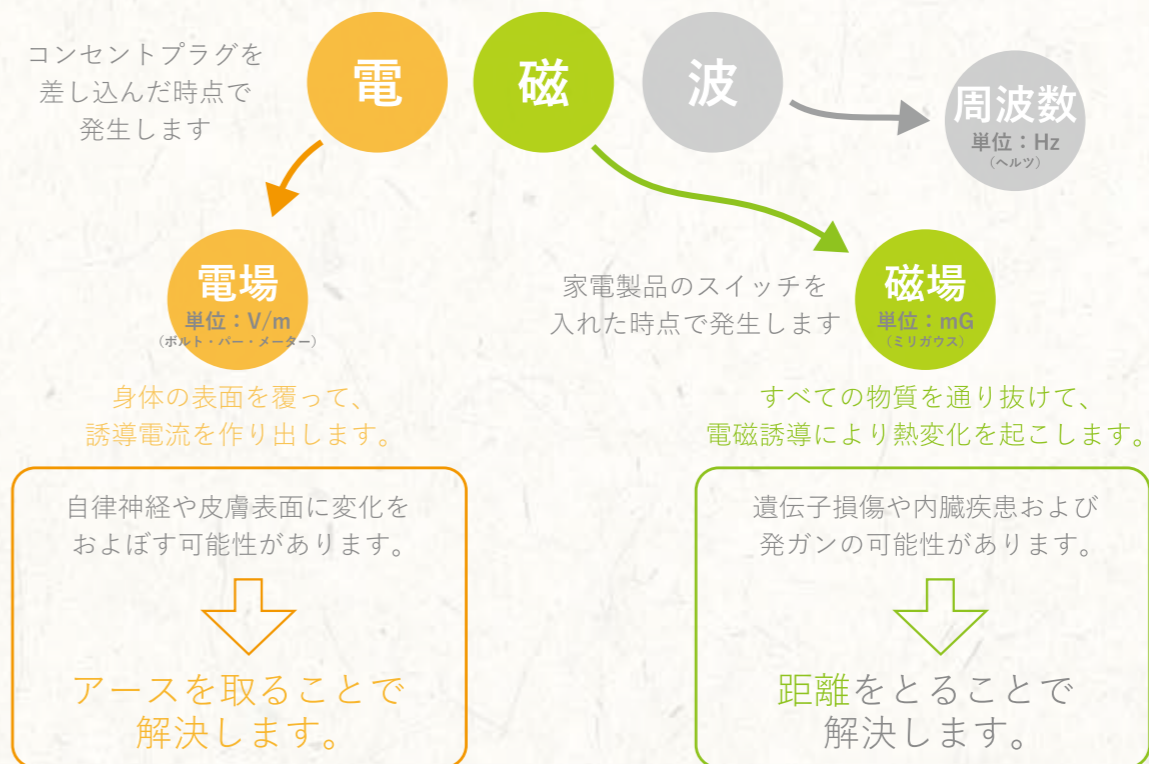
その分電盤から、各部屋に電気を配る役割が屋内配線というもので、その先に照明があったり、コンセントがあったりするわけです。

そこからパソコンやテレビなどの家電製品とつながるわけですが、この一連の電気がつくれるすべてのパーツから、電磁波は発生しています。

家電製品から出る電磁波の違い



電磁波の意味と性質



この電磁波の 驚くべき特徴とは？

屋内配線が通っている付近の床や壁には、電場が伝播します。
その床の上に座っていたり、壁の近くに置かれたベッドで寝ていると、電場は人の身体に集まってしまいます。その状態で身体の電場を測定すると、世界で最も厳しいとされるスウェーデンのガイドラインの10倍にもなり、床面やベッドの上よりも身体のほうが高い数値になることもあります。
屋内配線からの電場の数値は、パソコンに触れている時とほぼ同じです。
「家」が、電磁波の発生源となっているのです。発生源は、「屋内配線」でした。
この屋内配線は、常に電圧がかかっている状態ですので、電場を発生させ、特に木造2階建ての2階の床はもっとも強くなります。それは、どうしても1階の天井裏に配線が集中してしまうからです。ですから、その配線からの影響を軽減するための工法が必要な時代になってきたのです。

電磁波の基準と現況

住宅の2階床面における電場の発生量の比較



*表記の数値はオールアース住宅にて同じ場所かつ同一の環境条件で調査した結果の一例です。

スウェーデンVDT(ビジュアルディスプレイターミナル)
電磁波規制ガイドライン

電磁波	周波数帯	測定基準値
電場(電界)	ELF(極低周波)	25V/m
磁場(磁界)	ELF(極低周波)	2.5mG

電磁波(電場)は建物の壁や床、パソコンなどの電気製品から発生し、身体に伝播していきます。



パソコン

人の身体

床

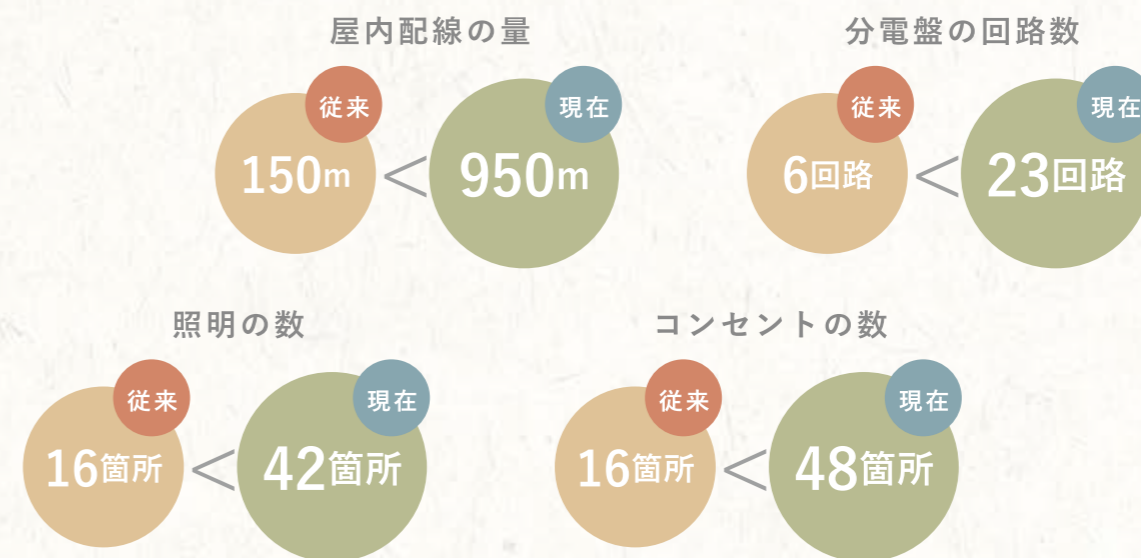
壁

なぜ、このようなことが 起きるのでしょうか？

それは、高度成長期を経て、私たちの生活スタイルと電気の使い方によるギャップが起こっているからなんです。

この50年間で電気の使用量が10倍になりました。たくさんの電化製品が使えるようにと、コンセントも増えて、明るい照明が住まいに欠かせなくなりました。そのため、床や壁の中の屋内配線は950メートルにもなり、家そのものから電磁波が発生しているのです。つまり、利便性と機能性を追求した結果、住まいの進化によるデジタルジレンマ[利便性が生んだ落とし穴]を引き起こしているんです。
ドイツやスウェーデンなどの海外では、これほど大きなギャップは起きていません。その根本的な理由は、日本以外の多くの国ではアース(大地の回路を利用して電気を逃がす)が当たり前になっているからです。

家屋の電気設備の推移



※これらの数値は(株)レジナが独自に調査を行った平均値です。
従来：築35年以上(昭和53年以前) 15棟の平均数値です。
現在：新築5年以内(平成20年～25年) 550棟の平均数値です。
※表記している配線は一般的な単相2線及び単相3線の電力ケーブルのみを指しています。

便利な機能の普及状況

日本全国の人口は1億2706万人(2008年3月末) 世帯数は5,232万4,877世帯

オール電化の普及率 (2009年6月末に)	携帯電話の普及率 (2009年6月末に)	パソコン普及率 (2008年末に)	IHクッキングヒーターの普及率 (2008年6月末に)
6% (330万台)	88.5%	85.9%	5% (280万台)

※日本の世帯における携帯電話の普及率とIP電話利用率(1998年末～2007年末実績)。
出所：総務省「平成19年度通信利用動向調査報告書(総務編)」(2008年6月)

アースとは何ですか？

アースは英語でearth(地球)ともground(地面)ともいいますが、日本語では「接地」と訳されます。ハイボルテージ(250ボルト)の国(EU諸国や韓国など)では、このアースが義務付けられています。*日本でも200ボルト以上はアースが義務化。
しかし、日本で使われている電気は100ボルトが中心ですから、私たち日本人はアースへの認識が希薄です。
実は電気の設備基準が決まっている内線規程というルールでは、「すべての部屋にアース付のコンセントを設けること」が推奨されています。
アースが取れない生活環境にあることが、実は大きな潜在的な問題をつくっています。最も電磁波の影響を受けやすい環境に置かれているのは、私たち日本人なのです。

コンセントの形状



内線規定による電気配線の規定

大幅に安全水準を向上させたのは大きく2点です。

- 1 配線器具において、接地極付による安全性の確保、余裕ある設置個数明示、100/200V併用コンセントの規制緩和が盛り込まれました。
- 2 コード短絡保護機能付ブレーカの施設が盛り込まれました。

これらの重要ポイントについて、変更箇所と対策(商品)をご紹介します。

- | | | |
|------------------|-----------------|------|
| 1 配線器具(接地) | コンセントの接地極付化について | 義務 |
| 2 配線器具(100/200V) | 単相3線式分岐回路について | 規制緩和 |
| 3 ブレーカ | コード短絡保護機能について | 推奨 |

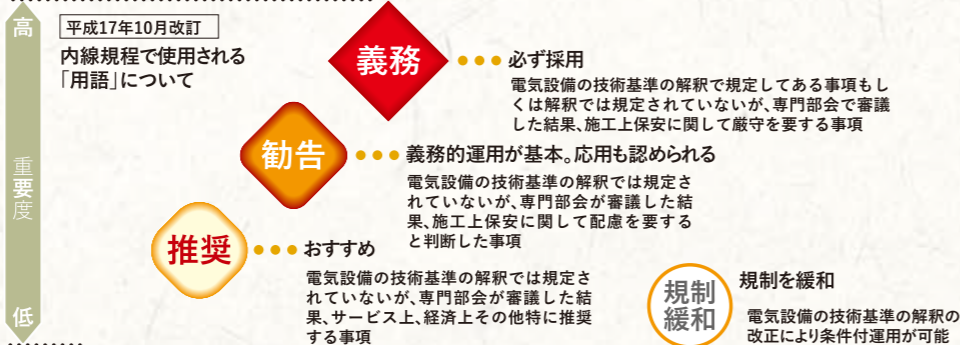
従来、特定の機器に用いる接地極付きコンセントの規定は「勧告」でしたが、接地極付きコンセントの施設が「義務」に引き上げられました。

- 義務** 住宅に施設する200Vコンセントは、接地極付きコンセントの施設が義務化されました。
- 勧告** 住宅以外に施設する200Vコンセントは、接地極付きコンセントの施設が勧告されました。
- 勧告** 屋外や台所に施設するコンセントは、接地極付きコンセントの施設が勧告されました。
- 勧告** 単相3線式分岐配線に用いる100/200V併用コンセントは、接地極付きコンセントの施設が勧告されました。
- 推奨** 上記以外の住宅に施設するコンセントには、接地極付きコンセントの施設が推奨されました。

◆内線規程とは

省令として制定されている電気工作物の技術基準について、電気設備の保安確保及び電気的な安全な使用を目的として、電気工作物の設計、施工、維持、検査の技術的事項を定め、分かりやすく記述した代表的な民間自主規格です。
※この「省令」とは、電気事業法に基づき、制定されている「電気設備に関する技術基準を定める省令」

マークの見方



電磁波先進国との違いとは？

住環境における電磁波に関して、ヨーロッパ各国と日本では、ガイドラインや一般的な認識の違いがあり、また設備にはこのような違いがあります。

- ①コンセントはすべてアース端子付き。
- ②パソコンはすべてアース端子付き。
- ③日本と比べて照明、コンセントが少ない。
- ④日本と比べて屋内配線の使用量が3分の1。
- ⑤電気毛布や電気カーペットは使わない。

スウェーデンには世界一厳しい電磁波のガイドラインがあります。
ドイツにはバウビオロギー(建築生物学)という概念があり、住まいの「4つの環境要素」の1つとして電磁波を挙げています。そこでは、寝室に限定した規定を設けています。
ヨーロッパ諸国よりも身体に負荷がかかる電気環境にある日本で、電磁波の影響を受けないためには、どうすれば良いのでしょうか？
その答えは、オールアース®の技術に凝縮されています。

オールアース®住宅の技術とは？

その技術を支えるのは、電磁波測定士です。

その技術を提案できるのが、オールアース®パートナーです。

バウビオロギーの 四つの環境要素

(株)レジナは日本バウビオロギー研究会会員です



電磁波の影響を最小限に抑えた オールアース®の技術とは？

現代の住まいを考えると、自然素材が持っている本来の効果を十分に発揮できない環境にあり、自然素材の力だけでは、カバーできなくなっていることを知ってください。便利さや快適さだけでなく未来の住宅に必要なこと、それがオールアース®の技術です。以下8つのルールを順守することでオールアース®技術の標準化を図っています。

- ①日本電磁波協会(EMFA)の電磁波対策基準である「EMFAセーフティガイドライン」を準拠しています。
- ②現場指導、中間測定、竣工測定、入居後測定を電磁波測定士の有資格者が行います。
- ③専用のアースは単独で接地抵抗は50Ω以下を基準とします。
- ④施工箇所は長く居る居室や場所が優先されます。
- ⑤引き込み点、電気メーター、分電盤の位置を確認し、幹線経路の確認を行います。
- ⑥内線規程に基づき、場所と用途を踏まえて接地端子(接地極)付コンセントを活用します。
- ⑦床暖房やIHクッキングヒーターについては、電磁波の視点から適切なアドバイスを行います。
- ⑧近隣の送電線や電柱の位置関係については、必要に応じて適切なアドバイスを行います。

このことが最後の安心につながります。
これらのルール(技術基準)は長年の施工実績に基づいており、内部配線の量やレイアウトなどによって大きく異なる電磁波の影響を未然に防ぐノウハウになっています。



壁



スイッチ付近



床

EMFAセーフティガイドライン

EMFAセーフティガイドラインは日本電磁波協会が日本の実情に合わせて策定した、日本独自の電磁波対策の安全基準です。世界一厳しいと言われているスウェーデンで1990年に策定された電磁波に対する安全基準「MPR-II」、そして電磁波対策の先進国であるドイツで提唱された「バウビオロジー」など、海外の先行した規定事例をベースに、EMFA調査による国内住宅での電磁波発生実態、各種学術論文および研究報告書、そして日本の住宅事情等、実態に基づいた考察を加え、実現可能な最大限の限界値として設定されています。

EMFA セーフティガイドライン：メインルール

<p>25 V/m以下</p> <p>電場基準： 床、壁、天井の6面が 囲まれた空間において、 床および高さ1m以下の 壁面で電場が25V/m以下</p>	<p>2.5 mG以下</p> <p>磁場基準： 床および3面の壁面で 主要電線である幹線 からの距離が60cm以上 かつ磁場が2.5mG以下</p>	<p>コンセント基準： アース付コンセントを (エアコン専用以外で) 1箇所以上設置</p>
--	--	--



EMFAでは、同基準を満たす住宅に対し「優良性能住宅認定」を行い、電磁波対策の施された安心できる住宅の普及に努めています。

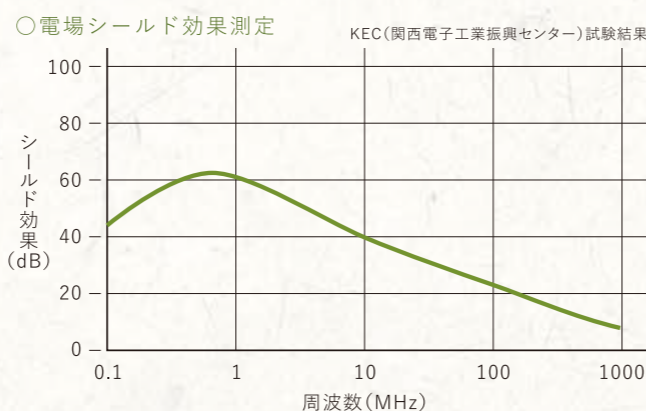
有機導電性シートの特徴

- ☆電波(0.6MHz~500MHz:高周波)の周波数帯について、吸収するという効果があります。
☆電場(2Hz~2KHz:極低周波のひとつの要素)に対してはアース機能を付加することで伝播を防ぐことができ、抑制することが出来るのです。

○6つの特徴

- 安全性
- 耐久性
- 抗菌・防臭効果
- 作業性向上
- ハイクオリティ
- 実績

製品名：導電性スパンボンド(不織布)
材質：ナイロン100%(ダイジェナイト結合繊維比4%)
重さ：30g/m² 厚さ：0.3mm サイズ：幅100センチ×50メートル
耐熱条件：軟化点180℃ 溶融点215℃



具体的な施工事例とは？

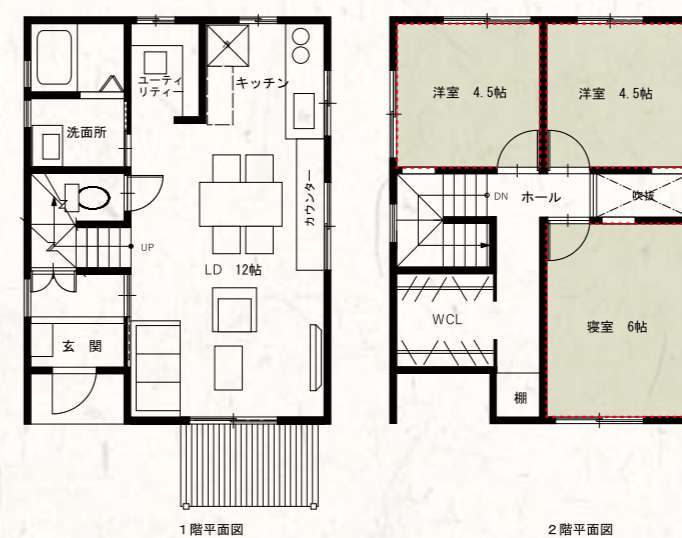
長時間滞在するお部屋を中心とした壁と床に導電性シートを施工していきます。例えば、こちらは標準的なモデルですが、木造二階建ての1Fと2Fの平面詳細図です。

ベーシックプランでは、ポイントとなる2Fを重点的に対応します。2Fは1Fの天井の照明や配線の影響で、床部分の電場の数値が最も高くなります。そのため、壁だけではなく床への対策も必要となります。滞在時間を考えてみると、ご夫婦の主寝室と子供部屋への施工となります。ウォークインクローゼットやトイレなどは対象とはなりません。また、電柱からの引き込み点の位置が、ベッドの位置やデスクの位置が近かったりしないように、レイアウトと連動して考慮しておくことが大切です。これだけの対策によって、電磁波の影響を最小限に抑えたオールアース®住宅が実現します。

さらに、1Fにも対応を増やしていくことができれば、オールアース®住宅のグレードを上げていくことができます。奥様の滞在時間が長いのはキッチンです。キッチンは限られたスペースに家電製品がぎっしり入りがちですから、その周辺は電磁波の数値が大きくなります。そのために壁の対策や家電製品のアース接続などちょっとした工夫が必要です。リビングや和室などは、家具などを通じて身体が触れ続ける可能性のある場所への対策をお勧めしています。なお、パソコンを置くスペースはアース端子付コンセントが必須です。
*1Fは床下に配線が入っていないことを前提としています。

オールアース®住宅のプラン例

ベーシックプラン



--- 腰壁・開口部(H1,000mm)
■ 床面施工箇所

その技術を支えるのは 電磁波測定士です

こうした施工基準を支えているのは電磁波測定士による正しい測定技術です。
電磁波測定士は、日常的に住まいの電磁波測定を行っています。
これから住まいをお考えのお客様が、具体的に現在のお住いについてどのくらいの電磁波が発生しているかどうかを知りたいというご要望が最近特に増えています。

新しく住まいを考えると、現在の住まいよりも確実に増えるものがあります。
それは、電気です。
電気が増えれば、必ず増えるのが電気の副作用である電磁波です。
ですから、現在のお住まいの環境よりも利便性や機能性は向上しても、それと同時に電磁波の影響もさらに大きくなることになります。

その電磁波を正しく測定し、正しい対策の方法を提案できることが、健康で快適な住まいづくりに必要不可欠な時代になりました。

*電磁波測定士とは、一般社団法人日本電磁波協会の認定を受けた高い測定スキルと、豊富な知識を備えた電磁波対策のエキスパートです。

電磁波測定士と(社)日本電磁波協会(EMFA)について

■民間資格制度(電磁波測定士)を導入

電磁波測定士は、一般社団法人日本電磁波協会(EMFA)が認定する民間資格制度です。
目に見えない電磁波については様々な情報が氾濫し、消費者の方を混乱させている現状があります。
また、我が国においてはまだまだ研究データが乏しく、実用的な基準値もありません。

電磁波測定士資格制度は、EMFAが蓄積した5000件以上の電磁波測定データを元に標準化された測定方法を習得し、住まいの状況に適したコンサルティングを行う電磁波のプロを育成することで、住環境をより安全で快適に変えていくことを目的としています。平成27年6月現在、全国で830名の電磁波測定士が活躍しています。



■一般社団法人日本電磁波協会について

全国電磁波測定士協会は、電磁波測定士が電磁波に関して医学・建築・環境等幅広い分野における専門的かつ国際的な情報を収集し、その検証を行うことにより、自らの電磁波測定能力の向上のみならず、我が国において未だ正しく認識されていない電磁波とその影響に関する正確な情報と対策を幅広く周知させることを目的として、設立されました。

その技術を提案できるのは オールアース®パートナーだけです

オールアース®パートナーは、お客様に電磁波対策の必要性をお伝えし、オールアース®を提案することができる施工会社のことです。

オールアース®工法は特許工法です。この特許工法を消費者の方に提案できるのは、オールアース®パートナーに限定されています。

それは、電磁波対策の普及について弛まない努力をされている姿勢は、私たちの理念と通じることから、同じ意識を共有して取り組んでいるからなのです。

すべてのお客様に将来への電磁波リスクを伝えてその影響を最低限に抑えることで、結果的に、グローバルスタンダード(世界標準)の住まいづくりにつながります。

健康住宅を提唱している住まいは多くあります。

でも、電磁波対策まで行う住まいはまだ少ないのです。

熱気や湿気などの肌で感じる事ができる不快感だけではなく、知覚しにくい不快な要素も取り除いていきたい。

目に見えないからといって電磁波対策を怠る住まいを、私たちは健康住宅とは呼びません。

このアプローチブックはオールアース®住宅のキックオフ宣言でもあります。

オールアース®パートナーは、大切なお客様の住まいづくりにオールアース®の技術を採用しているオフィシャルパートナーです。

All Earth Partner オールアース®・パートナー

オールアース®・パートナーとは、(株)レジナの電磁波対策技術とノウハウを共有し、お客様へオールアース®住宅のご提案ができる資格を持った企業です。
パートナー企業には電磁波測定士が在籍し、間取りや建材選びから電磁波対策まで、健康で快適な住まいづくりをトータルでご提案します。

オールアース®・パートナー企業について

オールアース®・パートナー企業は、工務店や設計事務所を中心に、全国に57社(平成27年6月末現在)となりました。

全てのパートナー企業に共通しているのが、

- *住む人の健康を最優先に考え、
- *その土地に合う厳選された自然素材を使い、
- *環境にも配慮しながら、
- *利便性や住みやすさも追求した

現代型の家づくりに真摯に取り組む姿勢です。

その想いが、電気の身体への負担を軽減させる、オールアース®住宅のコンセプトと合致し、積極的な取り組みへと繋がっています。



お客さまからのおはなし

T様インタビュー

オールアース®住宅に興味を持ったきっかけについて教えてください。

T様 ● 住宅の新築にあたり子供のことを考え健康に良いものを選んでいました。部材や作り方を調べていくうちに電磁波のことを知り興味を持ちました。

どのような情報、媒体からオールアース®住宅に辿り着きましたか？

T様 ● インターネットで「自然住宅」などのワードで検索したどり着いたと思います。

ご家族の賛同はすぐに得られましたか？得られなかった場合、どのように納得していただけましたか？

T様 ● もともと私も家内も衣食住の安全に関心がありました。電磁波は無色無臭のため、政府や企業からの情報は信用できないし、インターネットや書籍などでいろいろ言われていますが、実際のところは自分で調べてみないとわからないと思います。自分で簡易的な測定器を購入して現在の借家やオフィスを調べました。その結果、うちは対策することになりました。予算はあまりかたくなかったので主要な場所だけに対策を打つことになりました。

これまでに電磁波が原因と思われる、または原因不明の体調不良などの症状はありましたか？また、電磁波対策は何かされていらっしゃいましたか？

T様 ● 自宅の電気機器にアースがついているものはアースをとりました。ホットカーベットはエルマグリーンでアースをとりしています。電磁波が出ている場所を子供たちに教えて、長時間いないようにさせています。

なぜ、目に見えない電磁波の対策、そして目に見えない箇所(床、壁内部)への施工にお金をかけられたのか教えてください。

T様 ● いろいろな情報を手に入れて、子供たちのためにできる限りのことはしたいと思っています。健康でない場合にかかる医療費や生活面での苦勞などを金額計算し、費用対効果を考えると対策費は高いものだと思います。

その他お気づきの点や、何かお伝えしたいことがありましたら、どんな

ことでも率直なご意見をお願い致します。

T様 ● 電磁波測定士の方が同じ地域にいるのに、その方に測定していただくことができませんでした。企業サイドの都合やしらみがまだあるようです。本当にユーザーの立場に立ちユーザーのことを考えたサービスをお願いします。



Y様インタビュー

オールアース®住宅を導入いただき誠にありがとうございます！ご新居での生活はいかがでしょう？

Y様 ● 電磁波のことは全く気にならず快適に暮らしているのですが、一つ残念なことは、最初からオールアース®で快適なために、そうしなかった場合との比較が出来ないので、オールアース®のありがたみを実感できないことでしょうか(笑)。

快適にお過ごしになられていて何よりです。さて、オールアース®を導入されたきっかけについてお聞きしたいのですが、もともと体調不良や電磁波対策への興味、関心がありましたか？



Y様 ● 夫婦どちらもアレルギーもなく、特に心配していませんでした。ただ、子供にアレルギーが出たら嫌だなあというのはあり、家造りにおいても無垢材、自然素材にこだわりました。

では、どうしてオールアース®住宅に興味を持ってくださったのでしょうか？

Y様 ● 新築を計画中に、たまたまある住宅メーカーのイベントに出かけ、そこで土社社長さんの電磁波セミナーを聞いて、お話しも興味を持ち、イベントでいただいた「アース革命」を読んだり、インターネットで調べたりして、「なるほどなあと思うようになりました。」

一番納得できた部分はどこですか？

Y様 ● 測定器で数値が見えたり、また床下配線の写真を

見て。あとは、メールで質問に回答してもらったり、やっぱり本を読んで納得できたことですね。



逆に不安な点はありましたか？

Y様 ● 施工をお願いする大工さんや電気工事業者さんの反応が不安でしたが、始めてみたら大工さんも電気工事業者さんともとても協力的で、心配ありませんでした。

最後に、なぜ目に見えない電磁波の対策、そして目に見えない箇所(床・壁内部)への施工にお金をかけられたのか教えてください。

Y様 ● やっぱ子供のためですね。あとは造ってしまっただけではできないですし、費用も安くはないですがなんとか許容範囲だったので。

やはりお子さんのためというのが大きいんですね。

Y様 ● そうですね。子供がいなかったら導入したかどうかは分かりません(笑)。

Y様、率直なご意見ありがとうございました。



S様インタビュー

オールアース®住宅に興味を持ったきっかけについて教えてください。

S様 ● 購入を検討していた土地の近くに高圧送電塔と高圧送電線があったため電磁波の害が心配になり、電磁波について調べていて、家庭内で発生する電磁波の問題も重要だと知ったから。せっかく化学物質の害の心配のない家を建てようと思ったから、電磁波の害の心配もないようにしたいと思いました。

ご家族の賛同はすぐに得られましたか？得られなかった場合、どのように納得していただけましたか？

S様 ● 夫婦2人とも高圧送電塔と送電線の電磁波の害について心配していたので、特に家族間で賛同を得るとか得ないとかいう問題は起きなかったです。夫婦2人で電磁波対策を調べたり話し合ったりしていた中で、自然に家庭内の電磁波の問題に関心を持ち、対策について話し合い、オールアース®にしてみようという結論になりました。

これまでに電磁波が原因と思われる、または原因不明の体調不良などの症状はありましたか？また、電磁波対策は何かされていらっしゃいましたか？



S様 ● 私は元々、身体があまり丈夫ではないため、体調不良は時々ありますが、電磁波が原因になっているかどうかは判りません。

対策も、特にしていません。携帯電話はポケットには入れないようにする、寝る時に枕もとに置かないようにする、ということくらいです。漠然と心配はしていましたが、具体的な対策方法を知らなかった事と、今住んでいる賃貸住宅にお金と手間を掛けるよりは、その分をとっておいて、家を建てる時にお金と手間をかけたほうがいいかもしいかと思っていました。

なぜ、目に見えない電磁波の対策、そして目に見えない箇所(床、壁内部)への施工にお金をかけられたのか教えてください。

S様 ● 電磁波の害が心配だったから。健康住宅についての講演会に行った時に電磁波アレルギーの症例などを知る機会があった事と、化学物質過敏症を完全に発症してしまった人のドキュメンタリーを見た事があった事も影響していると思います。自宅に居る事ができなくて、化学物質や電磁波が発生している所に近寄れなくなってしまうと、居場所がほとんどなく、仕事に行く事も学校に行く事もできない。人生を失うのと同じ事だと痛感しました。電磁波が溢れている現代社会で、せめて自宅だけは安心できるようにしたいと思いました。せっかくお金をかけて家を建てても、もし



電磁波アレルギーになってしまって住み続ける事ができなくなれば、あるいは自宅にいてもすぐ具合が悪い状態になってしまったら、50

万円程度(今回オールアース®の施工にける金額)の金額では解決できないことです。それを考えれば、妥当な金額あるいは割安な金額なのではないと思いました。ただ、スッキリボールと合わせた金額だと予算オーバーになってしまったので、もうちょっと安いとも思います。オールアース®とスッキリボールを合わせて50万円くらいに納まるとよかったです。

電磁波対策の方法としては、室内に露出して「これが電磁波対策の装置ですよ」と判るよりも、露出してないほうがインテリアが電磁波対策に左右されなくて自由にできていいし、目に見えない箇所への施工だからどうこうという観点で考えたことはなかったです。床下や壁内にちゃんと入っているかどうかは、施工中に現場に見に行けばいい事です。施工したあとで、直接メンテナンスができないという事については、多少の心配はあります。

ただし、電磁波そのものが目に見えず、匂いもなく、音も無いものだし、その害についても基準の数値についても諸説あり、対策についての考え方もピンキリなので、電磁波対策がこれで良いのかどうかという事については、絶対の確信があるわけではないです。こればかりは、実際に住んでみないとわからないし、結論が出るのは長年住み続けてからになるかな、と思っています。家を何件も建てて色々な方法を同時に比べて実験してみるわけにも行きませんしね(笑)。

お引越後間もないですが、オールアース®住宅にされた実感、住み心地はいかがですか？

S様 ● オールアース®は私ども夫婦にとって未知の世界でしたので、導入するにあたっては不安に思うこともありましたが、現場説明会や中間検査など、実際に体験してみるととても楽しくワクワクする経験となりました。ありがとうございました。新しい家にはまだ馴染めなくて緊張していますが、空間としてはとても快適です。疲れがとれやすくなったような気がします。これが、オールアース®を導入していなかったらどんな感じだったんだろう?と思う事もあります。同じ家で比べられないのでよくわかりませんが、きっと快適さは違っていたのではないかと考えています。

